令和２年度一関保健所運営協議会議事録

◇　日時
令和２年８月４日（火）18：30～19：35

◇　場所
一関市山目字前田 13 番地１
一関保健センター１階　多目的ホール

◇　出席者
別添出席者名簿のとおり
委員 19 名のうち 17 名出席

◇　会議内容
１　開会（佐々木次長）
会議成立報告：委員 19 名中 17 名の出席

２　挨拶（仲本所長）

３　出席者紹介（佐々木次長）
別添出席者名簿により紹介

４　議事

〇青木 幸保 会長（平泉町長）
それでは議事に入らせていただきます。
「（１）副会長の選出について」事務局からお願いします。

＜佐々木次長＞
これまで当協会の副会長でありました中野前一関医師会長が、５月の改選に併せて辞任されましたので、後任となる副会長１名の選出を行います。選出方法は、保健所運営協議会条例第４条第２項により委員の互選と規定されています。以上です。

〇青木会長
本来であればどのような方法でとお諮りするところではありますけれども、議長から提案させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（異議なしの声）

委員の皆様はよろしいということなので、事務局案を提示いただき協議していただきたいと思います。

＜佐々木次長＞
事務局から提案させていただきます。副会長には一関市医師会長の寺崎委員にお願いしたいと考えております。

○青木会長
　ただいま事務局から提案がありましたが、副会長には一関市医師会長の寺崎委員をお願いしたいという提案ですが皆さんいかがでしょうか。

（一同拍手）

　ありがとうございます。それでは寺崎委員を副会長に任命させていただきます。

　次に「（２）新型コロナウイルス感染症について」の「ア　新型コロナウイルス感染症の動向」について説明をお願いします。

（仲本所長から資料１を説明）

○青木会長
　ただ今のご説明について、委員の皆様からご意見ご質問等ありましたら御発言をお願いします。

○佐藤 耕一郎 委員（県立磐井病院長）
　COCOA アプリについてお願いがあるのですけれど、COCOA アプリは非常にいいのですが、なかなか入れてくれない。入れない理由は、多分陽性者は、自分が出てもここに出ましたというボタンを押さないだろうということで入れてくれない。そこで、お願いなのですけれども、保健所で、陽性者が出て、もし COCOA アプリを入れていた時は、陽性者ですと入れるようにお願いしてもらえないでしょうか。

○青木会長
　事務局お願いいたします。

＜仲本所長＞
　はい、是非そうさせていただきたいと思っています。
　このアプリについては、インセンティブが必要だと思っています。
　もしサポアプリにビジサポというのがあって、入れるとクーポンがあり、やる気を出したりすることがあります。

○青木会長
　質問よろしいですか。ほかにございませんでしょうか。
　それでは、次に進行させていただきます。
　次に「イ　一関保健所の対応状況等について」事務局からご説明をお願いしたいと思います。

　（高橋保健課長から資料２を説明）

○青木会長
　それでは、資料２について説明させていただきましたけれども、委員の皆様から御質問・御意見がございましたらお願いいたします。
　寺崎委員どうぞ。

○寺崎 公二 副会長（一般社団法人一関市医師会長）
　医師会の寺崎です。先ほど御説明いただきました医療供給体制の確保についてお聞きしたいのですけれど

も、この冬のシーズンにインフルエンザとコロナウイルスがかぶる状況になったら、一般の診療所のレベルでどういった対応すればいいか皆さん困惑している状況です。昨日、感染症学会で出た指針では、インフルとコロナの両方をチェックしてください。簡易キットでチェックしましょうという話が出ていましたけれども、インフルの簡易キットは従来通り回るかもしれないけれども、コロナの簡易キットは恐らく品不足になるというような状況で、今後、冬のシーズンに向けて、インフルエンザも出てコロナの検査がどういう位置づけになって、一般の医療機関がどういう体制がとれるのか、何か情報をお持ちでしたら教えていただきたいです。

○青木会長
　事務局お願いします。

＜仲本所長＞
　我々がお願いするのは、一般の診療所さんでも申請いただければ、外注条件にさせていただきたいということでどこでも検査できる体制を整えてもらいたいと思っています。
　イギリスからの情報では、インフルエンザとコロナを同時にできるのができているので、そのような開発にも期待したいと思っています。

○青木会長
　よろしいですか。
　他にございませんでしょうか。
　佐々木委員どうぞ。

○佐々木 幸子 委員（一関市地域婦人団体協議会副会長）
　病院の集団感染の対策として、入院患者全員に抗原検査をした方が良いのではないかというふうに言われているのですが、そういう対策等は行われているのでしょうか。

○青木会長
　事務局お願いいたします。

＜仲本所長＞
　まだ、そうはなっていないですね。現時点では例えば岩手県みたいなところは、非常に確率が低いところなので、やはり一定の接触例や濃厚接触者、そういう方々を見ていくのが一番いいのだろうと思っています。
　また、私費による検査も可能になってきております。

○青木会長
　佐々木委員よろしいですか。
　他にございませんでしょうか。
　神﨑委員どうぞ。

○神﨑 浩之 委員（両磐地区介護支援専門員協議会長）
　今日はどうしたら保健所を中心としてこの地域の安全体制をとれるか応援する意味で発言したいと思っています。
　町民の皆様、市民の皆様、医療機関の御努力でこの地域から今まで発生が確認されていないということは素晴らしいことだと思っています。
　私は、ケアマネージャーの会の会長であります。ケアマネージャーというのは、在宅の高齢者、介護の必

要な方にマネジメントして、ヘルパーさんだとか看護師さんとか在宅を訪問していただく事業者が行ってくれないと我々の仕事ができないわけでありまして、今、ケアマネージャーが心配なのは、在宅の高齢者が感染していないかどうかです。それから、自分たちが感染させるのではないかという心配があります。そういうことの中でケアマネージャーも皆さんも仕事をしているということなので、陽性患者発生から入院までのフローのように、両磐管内きちっと回るということが一番必要だと考えております。そのためには、保健所が治療するわけではないので、保健所がコーディネートできるように開業医の先生のところ、それから受入病院で軽度の方はどこ、中度の方はどこ、重度の方はどこ、そしてホテルがあって、その中で回せる体制を作れば、感染の方がでても安心できると思っています。今後この地域の中で感染者が出ても回るようにしていくために、今日お集りの皆さんが各部門の中で役割を気にしていただいて、皆さんで先の見えないコロナとの戦いを乗り切っていくというふうになればいいなと思っています。

○青木会長
　はい、ありがとうございます。
　事務局から何かありますか。

＜仲本所長＞
　ありがとうございます。入院までのフローですけども、これだけにならないように、明日、連絡訓練を予定しています。そういうことも計画しておりましたのでよろしくお願いします。

○青木会長
　よろしいですか。
　長澤委員どうぞ。

○長澤 茂 委員（一般社団法人岩手県介護老人保健施設協会長）
　県の老人保健施設として気になったのが、無症状の人をどうするかということです。おじいちゃんおばあちゃんに会いに都会から来られる時に自覚症状はないんだけれどもやっぱり検査は必要だろうという判断を求められる局面というのがあると思います。基礎疾患がある高齢者が重症化しないように注意しなといけないのですけれども、お盆の季節にどのような接触があるのか心配しています。その辺のところでこういうふうにしたら心配ないよというサゼスチョンがあればいただきたいです。

○青木会長
　事務局よろしいですか。

＜仲本所長＞
　私自身は、本当に安心が得られるのであれば、検査ができるならと思っている部分もあります。アメリカ辺りでは、１ドルから数ドルでできるようです。
　もしも今後、二類感染症から外れるというふうになれば、もっとやりやすい方向になってくるのではないかと思います。

○青木会長
　よろしいですか。
　他にございませんでしょうか。
　それでは、進行させていただいてもよろしいでしょうか。
　慎重に御協議賜りまして誠にありがとうございます。限られた時間でしたが皆様方の御意見・御質問をいただいたところであります。引き続き今後ともよろしくお願いしたいと思います。

これで議事の分については、納めさせていただき、あとは事務局にバトンタッチしたいと思います。
御協力ありがとうございます。

＜佐々木次長＞
青木会長ありがとうございました。

５　その他
＜佐々木次長＞
終了時間は19時30分とお話しておりましたけれども、終わりの時間が迫ってきておりますので、お手元の資料の３「令和元年度一関保健所事業の実施状況及び重点取組事項」については、説明を割愛させていただきます。委員の皆様からこれに関しまして、御意見・御質問等ございますでしょうか。
よろしいですか。
それでは、その他に入らせていただきます。委員の皆様から何かございますでしょうか。

〇青木会長
今、Go To キャンペーンをやっていて、一関、平泉に観光客が来ています。そんな中で、カメラでチェックをしようということにしており、あなたはこういう状況ですから、町に入れませんとか、入山できませんという時に、まず保健所に相談して、県外の方だとどういう状況になるのか。本人の意思もあるので、入れないのであればそのまま帰りますというのであればそれでいいのですけれども、入れませんからこれ以上行かないでくださいと止めるわけにはいかないですよね。相談を受ける所があるから、そこに行ってくださいと紹介をしなければならないですよね。県外の方でもそのまま滞在していただいて、その方の意思にもよるのですけど、検査を受けたいとか、本人の意思だけでは駄目なのでしょうけれども、そういう対応っていうのは今されていないですよね。そのような体制を岩手県としても早急に整える必要があると考え、御検討いただきたい。

＜仲本所長＞
旅行客について、心配な場合、保健所やコールセンターに遠慮なく御相談いただいて結構です。そのうえで検査をすることが大切です。受診が必要であれば、受診調整をするということがあります。急病の方をそのまま帰すことはしません。

＜佐々木次長＞
よろしいでしょうか。

〇勝部 修 委員（一関市長）
せっかく専門の先生方がいらっしゃるので、教えていただければと思います。
ニュース等で、病床の使用率が全国的に上昇傾向にあるということが、盛んに言われております。単にベッドの数だけではなく、看護師さんとかスタッフの数も影響してくると思うのですが、国の方では医療はひっ迫してないというふうに言っているのですね。これをどう解釈すればいいのかと。重症者数は、まだそんなに多くないのだというふう解すればいいのか教えていただきたいと思います。

＜仲本所長＞
この資料でも少し説明しましたが、４月と同じ状況であれば感染者数のピークから遅れて２週間から４週間後に重症者のピークが来るというのが４月のパターンです。もしかして本当に重症化率が減ってきているのかもしれないです。弱毒化で。それは分かりませんが、政治家の方はGo To キャンペーンもありますし、現時点で病床は一杯ではないという見方をされているのだと思います。

ただ、医者側からすると１週間後、３週間後の様子はどうだろうと思います。

＜佐々木次長＞
ありがとうございます。そのほか何かございますでしょうか。

○佐藤 耕一郎 委員
すぐできる問題ではないかもしれませんが、救急の問題なのですが、結構、熱が出てしまうと、輪番病院では取ってくれなくて、全部うちになってしまうんですけれども、今、救命救急士が色んな医療行為ができますが、抗原検査をしていただいて、「マイナスですよ。」という情報を流してもらうととってくれるのではないかと思います。

＜佐々木次長＞
そのほかございますでしょうか。

○長澤 茂 委員
お願いがあります。県境にある一関平泉では、県境を越えてはダメだというアナウンスが非常に心に突き刺さります。と申しますのは、私どもの医療法人でも宮城県北からの応援を相当いただかないと回らない。おそらく、県境に位置する市町村は同じ思いでメッセージを聞いています。あのメッセージが勤務している人たちが非常にストレスを感じています。もう一言、そういう場面あるいはそういうことが求められている時には、必要な場合ならいいですよというメッセージを是非付け加えていただきたいというふうに思っています。

＜仲本所長＞
エッセンシャルワーカー、その先生方がいらっしゃらないと回らないですので、そういった場面があるといいなと思います。

＜佐々木次長＞
そのほか何かございますでしょうか。（なし）
よろしいですか。
事務局から何かありますか。（なし）
本日、委員の皆様からいただいた御意見等を踏まえ、今後の保健所の運営に反映させていただきたいと思います。